

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（島根2号機設計及び工事計画）【110】
2. 日時：令和4年3月7日 13時30分～16時50分
3. 場所：原子力規制庁 9階D会議室（TV会議システムを利用）
4. 出席者（※・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

新基準適合性審査チーム

植木主任安全審査官、三浦主任安全審査官、千明主任安全審査官、服部（正）主任安全審査官、大野主任安全審査官、宇田川安全審査官、服部（靖）安全審査専門職、山浦技術参与

技術基盤グループ 地震・津波研究部門

堀野技術参与

事業者：

中国電力株式会社

電源事業本部 担当部長（原子力管理） 他13名※

中部電力株式会社

原子力本部 原子力部 設備設計グループ 担当※

電源開発株式会社

原子力技術部 設備技術室 担当※

## 5. 要旨

(1) 中国電力株式会社から、島根原子力発電所2号機の設計及び工事の計画認可申請書のうち、工事計画に係る補足説明資料（発電用原子炉施設の溢水防護に関する説明書）等について、令和4年3月1日の提出資料に基づき説明があった。

(2) 原子力規制庁から、主に以下の点について説明等を求めた。

【工事計画に係る補足説明資料（発電用原子炉施設の溢水防護に関する説明書）】

- 復水器本体移動による接触影響評価について、センターサポートの鉛直方向の評価を説明すること。
- 復水器本体移動による接触影響評価における基礎部耐震サポートの評価について、コンクリートのせん断及び曲げ評価の必要性を確認し説明すること。
- 水室の鉛直方向の揺れによって弁と配管が接触しないか確認して説明すること。
- 時刻歴応答解析について、解析モデルの説明を充実させ、解析の分割

数及び要素の種類についても説明すること。

- 時刻歴応答解析について、細管軸方向（NS 方向）の固有周期に対して応答加速度の大きい地震動を選定しているが、細管軸直方向（EW 方向）の固有周期に対して応答加速度の大きい地震動を選定していない理由を説明すること。
- 時刻歴応答解析にかかる固有値解析結果について、卓越する振動モードとして、10 次モード及び 59 次モードを選定した理由を、有効質量の考慮も踏まえた上で説明すること。
- 時刻歴応答解析に係る水室に作用する荷重の算出において実施している 3 方向同時入力による解析について、荷重及び変位量の組み合わせ手法及び解析結果を説明すること。
- 時刻歴応答解析について、復水器基礎に発生する荷重の向きを踏まえ、コーナーサポートにおける浮き上がり量を説明すること。
- 時刻歴応答解析における復水器水室フランジの変位量の算出について、地震動の入力方向と各方向の発生変位量を踏まえた、算出方法の詳細を説明すること。

(3) 中国電力株式会社から、本日説明等を求められた内容について了解した旨の回答があった。

## 6. その他

提出資料：

なし